

【症例 2】 60 歳代、女性

主訴：失神

12 年前より心房細動を認めている。7 年前、僧帽弁口面積 0.82cm^2 の重症僧帽弁狭窄のため、僧帽弁置換術を受けた。このとき一過性に洞調律に復したため、ジソピラミド $300\text{mg}/\text{日}$ が開始された。4 年前より年 1 回程度、数秒間の失神発作が出現するようになった。ホルター心電図にて初めて TdP が認められ入院となった。血清 K 値は $4.7\text{mEq}/\text{L}$ であった。ジソピラミド投与前は心房細動で、QT 時間 0.44 秒、QTc 0.40 秒と、正常範囲内である（図 3）。ジソピラミド投与後 QT 時間 (0.68 秒) の著明な延長を認めた（図 4）。失神発作時のホルター心電図では典型的な TdP を認めた（図 5）。

家族歴および血清電解質に異常なく、頭部 CT でも明らかな異常所見を認めなかったため、薬剤性 QT 延長症候群に伴う TdP と考えた。直ちにジソピラミドを中止したところ、QT 時間は数日で正常化した。

図 3

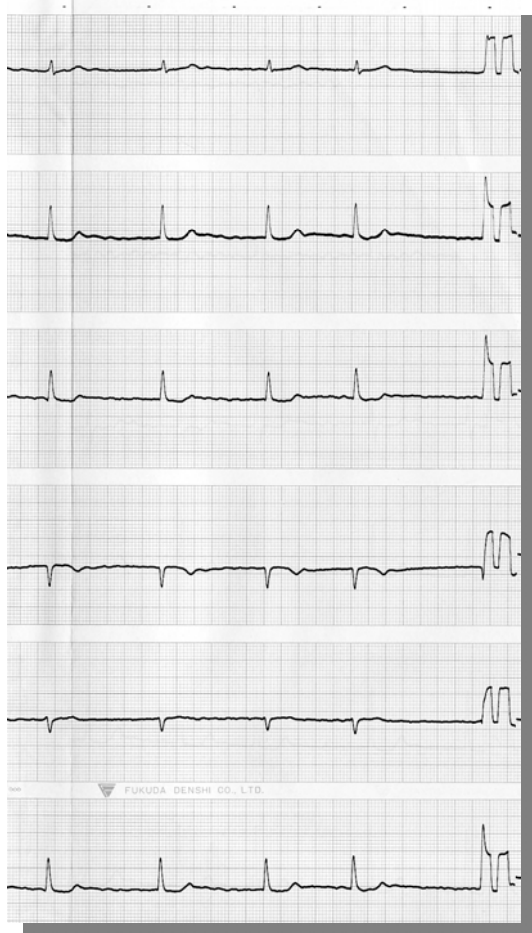


図 4

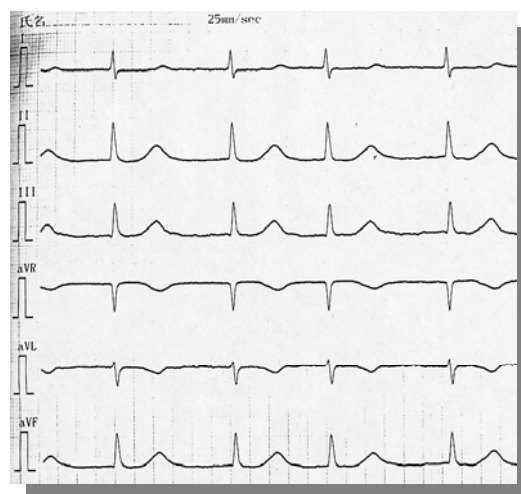


図 5

